

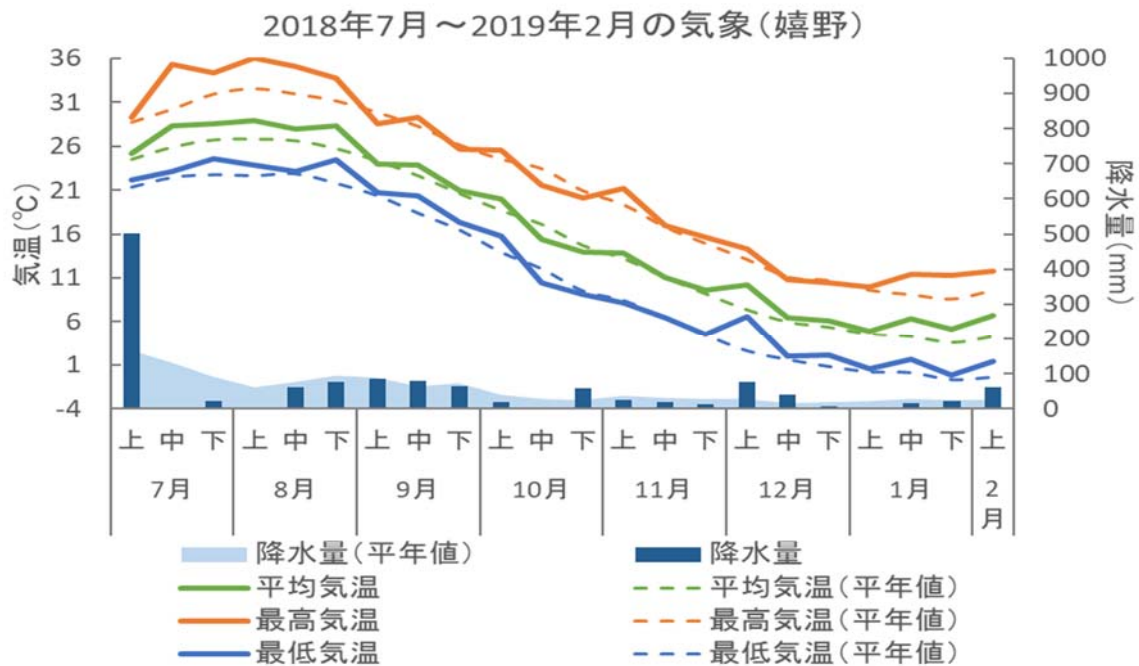
平成 31 年お茶づくり技術情報 (No. 1)

2019 年 (平成 31 年) 2 月 14 日

佐賀県茶業技術協会

佐賀県茶業試験場

1. これまでの気象と生育



1) 夏季(7月～8月)の気象は、平年よりも高温干ばつであった。秋季(9月～11月)の気象は概ね平年並みであったが、冬季(12月～)の気象は平年よりも高温多雨で推移した。

2) 秋芽の生育が悪く、充実不足の園が多かった。本年は越冬芽の生育が進んでおり、一番茶の生育は平年より早まる可能性が高い。



写真 さえみどりの越冬芽
(2/12 撮影、秋整枝 10/10)



写真 やぶきたの越冬芽
(2/12 撮影、秋整枝 10/16)

2. 今後の管理

1) 施肥管理

- (1) 温暖な気候で、生育が早まる傾向にあることから、春肥は遅れないように実施する（試験場内の土壌 EC は平年並みに低い）。
- (2) 芽出肥の施用は一番茶摘採の30～40日前を基本とし、施肥後は土壌と混和する。
- (3) 干ばつ時は施肥後の灌水や液肥が効果的である。

2) 整枝（化粧ならし）

- (1) 3月上中旬を目安に行う。新芽が秋整枝面より上部に出る前に必ず済ませる。今年には越冬芽の生育が早いため、遅れないよう注意する。
- (2) 絶対に新芽を傷つけないように、ハサミは秋整枝面より深く入れない。
- (3) やむを得ず作業が遅れ、秋整枝面よりも新芽が伸び上がった場合には、やや高めにハサミを入れ、できるだけ新芽を傷つけないようにする。
- (4) 再萌芽している茶園の整枝の目安
 - 再萌芽した芽が開葉している → 化粧ならしで除去。
 - 再萌芽した芽が開葉していない → 秋整枝面より5mm程度上げて、出芽した芽を切らない。

3) 防霜対策

- (1) 防霜ファンは萌芽2週間前からの稼働を基本とし、必ず早めに事前点検（温度センサー、首振り状態）を済ませておく。本年は例年より越冬芽の生育が進んでいる傾向にあるため、稼働が遅れないように注意する。

(2) 防霜ファンの設定温度は茶株面で3℃（茶株面より樹体は2～3℃低い）を基本とし、過度に設定値を上げない（晩霜害の発生助長やランニングコスト高となる）。

4) 病虫害防除

病虫害防除については、『平成 31 年度佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき』を参照してください。